

## 総合的な学習の時間

## 深まりのある探究的な学習活動を実現するための「まとめ・表現」の展開

探究の過程における「まとめ・表現」では、情報の整理・分析を行った後、それを他者に伝えたり、自分自身の考えとしてまとめたりする学習活動を行います。そうすることで、それぞれの児童生徒の既存の経験や知識と、学習活動により整理・分析された情報とがつながり、一人一人の児童生徒の考えが明らかになったり、課題がより一層鮮明になったり、新たな課題が生まれたりします。このことが学習として質的に高まっていくことであり、深まりのある探究的な学習活動を実現することにつながります。

中学校指導事例 単元名「地域の環境を守るために私たちができること」(31/40)

ねらい 地域の環境調査で得た情報について整理・分析したことを、地域の人に具体的な提言として発信できるような表現の仕方を考えたり、新たな課題等に気付いたりすることができる。

### 1 「整理・分析」の過程で分かったことを確認する

- (1) 場所によって川の水質の数値が違う。 (2) 昔と現在では水生生物の種類や数が違う。  
(3) 気孔の汚れ具合は、場所によって異なる。 (4) 川の透明度は、あまり変化がなかった。

### 2 地域の人に具体的な提言として発信できるような表現の仕方を話し合う



今までの学習で分かったことや考えたことを、地域の人に分かりやすく伝えるには、どうしたらよいか。

異なる3地点で3項目の水質を調査して表にしたけれど、数値だけでは何が課題か分かりづらいな。



体力測定の結果をレーダーチャートで表したとき、何が課題かが一目で分かったよ。レーダーチャートを作成して各項目を比較できるようにしたらどうかな。



3地点の地図や写真も組み合わせて、地域の環境の特徴と水質を関連付けて説明したら、もっと分かりやすく伝わるんじゃない。



グラフから3地点の比較はできたけど、他の地域と、どの程度水質が違うのかな。調べる必要があるわね。



### 3 新たな課題や改めて気付いたことについて話し合う



今、新たに調べなければならないことが意見として出されたけど、他にも課題や気付いたことなどはないかな。

調べたことを整理して、同じ場所の過去のデータと比べると、現在の方が水生生物の種類や数が少ないことが分かりました。



A君

A君の意見のように、地域の環境の変化が分かるデータが他にないか、市役所の環境課に行って、聞いてみたいと思いました。



技術・家庭科の授業で生活排水の勉強をしたことを思い出しました。環境を守るための水の使い方や、排水への配慮について、もう一度、みんなで考えてみたいです。



「まとめ・表現」の過程では、①相手意識や目的意識を明確にしてまとめたり、表現したりすること、②まとめたり表現したりすることが情報を再構成し、自分自身の考えや新たな課題を自覚できることにつながることで、③伝えるための具体的な方法を身に付けるとともに、それを目的に応じて選択して使えるようになることなどに配慮して指導することが大切です。